同窓会報　第43号
平成21年8月1日
㈳上田高等学校同窓会
〒386-0024 上田市大手1-9-8
TEL/FAX 0268-22-3146
ホームページ http://www.ueda.ne.jp/~uhd/
発行人　日置勇二
（発行部数 26,000部）
印刷所 ㈱上田ワードプロセス企画

創立百十周年記念事業に同窓生全員の協力を

理事長　日置勇二

歴史と伝統を刻んだ古城の門を心のふるさととして巣立った同窓生も、いまや三万三千名に達し、明年はいよいよ百十周年という節目の年を迎えます。今後の母校と、次の時代を担う後輩たちの一層の発展を祈念して、記念事業を実施したいとの機運が盛り上がりました。昨年10月に同窓会、学校、PTAの三者による記念事業実行委員会が発足し、笠原一洋前理事長（53期）の実行委員長就任とともに、事業分担委員会の主要人事が決定しました。

以来、数次にわたり協議を重ね、このたびの記念事業は学校、PTAの長年の懸案であった合宿所の充実と、空調設備の導入による教育環境の改善について取り組んでいくことになりました。

記念式典は、来年の総会（会員大会）に合わせて開催し、同窓生の基調講演などで盛り上げたいと考えます。

その他の事業としましては、まず同窓会活動の生命線である会員名簿の整備に努めます。会員の皆さんには「会員名簿」の訂正資料を毎年提出していただいておりますが、特に90期以降の若い会員の皆さんの情報収集を積極的に行います。

また、上田高等学校百年史以後の資料収集も編集委員の皆さんの協力を得て行う計画でおります。

生徒たちが心おきなく勉学に、班活動に打ち込める文武両道の母校にふさわしい教育環境を整えたく、総予算四千七百万円をもって実行することになりましたが、会員の皆様にはなにとぞ趣意をご賢察のうえ、募金には格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

実行委員長に　前理事長　笠原一洋氏

昨年発足した理事会は、昨秋「上田高等学校創立百十周年記念事業実行委員会」を組織し、委員長に笠原一洋前理事長が就任した。

笠原委員長がモットーとする「時代を先取りした改革への努力と環境の変化に対応した同窓会活動」をふまえ、記念事業の骨子が策定された。

式典、記念事業（合宿所付帯設備と普通教室へ空調設備の導入）、募金、百年史以後の資料収集、会員名簿整備の各委員会はそれぞれ委員を整え、代議員会の承認を得て活動が開始されている。

なお、記念式典は平成22年9月18日（土）を予定し、名簿については昨年度の代議員会及び総会において発行が決議されたものの、諸般の事情により発行はせず、今回は名簿の整備につとめることにした。

同窓生全員の母校愛と記念事業によせる熱意が高く望まれる。

平成21年度　総会（会員大会）ご案内

★期日　**9月12日（土）**

会　場　上田東急イン 国際クリスタルホール
上田市天神4-24-1
TEL 0268-24-1401
上田駅温泉口（千曲川側）から歩いて2分

受　付　14:00～
開　会　14:30～
講演会　講師／依田　隆文 氏（69期）
オープニング・アトラクション
議事

懇親会　17:30～
会　費　5,000円
（社）上田高等学校同窓会

総会記念講演会

— 総会議事に先立ち行われる —

時間　14時30分～15時30分
講師　東京地方検察庁　交通部副部長
検事　依田隆文氏（69期）
演題　裁判員裁判に向けて
実際の刑事事件を題材に検察官の仕事の一端を紹介、検察の新たな取り組みについて説明していただきます。

お堀ばた

四年ぶりに担当した一学年の現代文で、芥川龍之介の「羅生門」の授業をして驚いた。主人公の下人の人物像を文章中から、具体的に読み取る際のことだ。下人の年齢も容貌もいっさい描かれていない本文で唯一の身体的特徴として、何度も登場する「にきび」があるのだが、現在の高校生が「にきび」から連想するものが、「不潔」や、「ストレス」であったのだ。

かつては、「にきびは青春のシンボル」といったフレーズがあったほど、若者とにきびとは切っても切れないものだったと思う。現に、明鏡国語辞典を引いてみると、「多く思春期に顔などにできる小さな吹き出物」とある。羅生門の面白さは下人の心情変化にあり、その感情の振幅の激しさや発散する生命力の豊かさは下人の若さ故のものであるが、生徒が、にきび＝若さに辿り着くまでに、意外に時間を要してしまった。そういう状態は一クラスだけでなく、四クラス同様であった。

「不潔」・「ストレス」は、いかにも現代的な連想である。朝シャンブームがあったひところ程ではないが、清潔願望は強く、多くのデオドランド商品が売り出されている。女性化粧品のみならず、男性化粧品も肌の美しさが求められ、アンチエイジングや毛穴を目立たなくという商品が売れ行きを伸ばしているらしい。下人が置かれている失職と同時に住居を失うという状況は、昨年秋以降、噴出してきた派遣切り・不況によるリストラ等と重ねあわせ、高校生なりに「ストレス」を敏感に感じとったのではないか。

羅生門のような名作は、色あせないテーマがあるが、それと同時に古城の門をかつて通学したにきびにとっては、しばし、隔世の感にふける出来事であった。（J）

紙面案内

P2　代議員会報告
P3　支部だより
P4～P5　《カラー》ふるさとだより
P6　母校の班活動紹介
P7　同期会だより　OB会つうしん
P8　《カラー》同窓会事務局からのお知らせ